

非思量

NO. 269

ちょうねん かんぜおん

朝念観世音

『延命十句観音経』を学ぶ その8

朝、仏さまに手を合わせて、皆さんは何を思われますか。「今日一日、無事でありますように」、これは平凡ですが大事な祈りです。「うちの子だけは合格しますように」「商売益々大繁盛」、これらは自分本位の願い事です。では「人類が平和でありますように」というのはどうでしょうか。大きくて聞こえがいいですが甘さを感じます。

「朝念観世音」（朝に観世音を念じ）は、次の「暮念観世音」（暮ゆげに観世音を念じ）と対句になっていますから、朝だけのことではないのですが、とにかく朝は南無観世音と唱えなさいというのです。これは「願い」ではなくて「誓い」なのです。幸せを授けてくださいということではなく、しっかりつとめますと自己に誓うことなのです。

なぜかという私たちもみな観音さまの慈悲心と同じ慈悲心を持って生まれてきています。ところが、世の中がどうの、他人がどうの、仕事がどうのと、いろいろなものに引きずり回されて大事な慈悲の心を生かして生きようとしなくなっています。本当は自分自身が観音さまなのに、その観音さまをどこかに押しやって、自分のほうが、のさぼり出てしまっている。そして、あまり忙しすぎると、のさぼり出ている自分にさえ気がつかなくなってしまうのです。

それがあるとき、苦しみや悲しみにぶつかったり、大失敗をしたりすると、頭をかかえて考え込み、人間って何？、人生って何？と思悩むようになるのです。

しかし、この時こそが本当の自分と出会うチャンスなのです。そのとき教えが目に入り、小鳥の声や花の美しさがしみじみわかってくるのです。そして、今まで考えもしなかった自分のやさしさに出会います。すると、何かいい仕事をして多くの人に喜んでもらいたいと思えるようになるのです。自分の中の慈悲心を生かして、社会のために役立ちたいと考えるようになるのです。このとき本当の合掌がはじまります。

毎日新しい朝はやってきます。「この朝」はまたとない朝です。朝は誰もが皆やがては迎えられなくなるものです。だからこそ、ありがたいと思って「今日もしっかりつとめます」と仏さまに誓うのです。

さわやかな朝の訪れは、心のさわやかさと一つのものだと思います。